

第18回大会

平成9年8月10日～11日／那須野ヶ原CC／男子36校 女子11校



ジュニアゴルフのメッカ、那須野ヶ原CCに戻っての第18回大会は男子は水城（茨城）が7年振り3回目の、女子は大体大浪商（大阪）が初優勝を飾った。

男子は、水城の圧勝だった。主将の太田（3年）を中心に、他校にはまねの出来ない選手層の厚さで悠々と逃げ切った。特に太田は、プレッシャーのかかる最終日のラウンドで4アンダーの68をマーク。3年生の意地を見せた。優勝メンバーは太田以外は、全て1・2年生。7年前の優勝の時は、現在トッププロとして活躍の横田真一・宮本勝昌・片山晋呉らを要し、2連覇を達成している。チーム内での競争が激しく、選手同士の切磋琢磨が続くようであれば水城の連覇も夢ではないようだ。

また、2位以下は、やはり各チームのエースがチームを引っ張り上位に進出してきている。2位には、個人戦を制した宮里優作（2年）率いる大阪桐蔭、3位はジュニアナショナルチームメンバーの弘井太郎（2年）の明德義塾。こうした選手の活躍も注目のひとつだった。また、4位に初入賞の名古屋学院（愛知）の健闘も賞賛に値する。平井伸泰（3年）に刺激され、チーム全体が波に乗った感があった。

また、女子は、大体大浪商（大阪）が2位に19打差の圧勝で初優勝を飾った。関西の個人戦では、石川・東妻・田中の3人でタイトル争いを繰り広げるなど、同じ学校で競い合いレベルアップを計ってきた。主将の田中は卒業するものの、個人の部でも石川が3位、東妻が5位に入賞しており、男子の水城同様、こちらも連覇の可能性が大きい。



◇男子成績

①水城（茨城） 579 (285、294)	太田 直己③ 140 (68、72)	斎藤 大将① 144 (73、71)	村上 史晃① 146 (69、77)	小黑 貴志② 149 (75、74)
②大阪桐蔭（大阪） 602 (309、293)	宮里 優作② 137 (72、65)	只野 雅史③ 150 (77、73)	木下健太郎② 154 (78、76)	角谷 滋郎③ — (82、—)
角谷佐武郎③ — (—、79)	③明德義塾（高知） 608 (299、309)	弘井 太郎② 137 (67、70)	上本 義幸② 147 (73、74)	中武 力① 164 (81、73)
光本 教秀③ — (78、—)	広瀬 知寿③ — (—、82)	④名古屋学院（愛知） 608	⑤柳川（福岡） 610	⑥冲学園（福岡） 611
⑦中京商（岐阜） 614	⑧平安（京都） 618	⑨佐野日大（栃木） 619	⑩広陵（広島） 620	⑪仙台育英（宮城） 621
⑫日体荏原（東京） 621	⑬埼玉栄（埼玉） 622	⑭香川西（香川） 624	⑮長崎日大（長崎） 628	⑯札幌光星（北海道） 634
⑰星陵（静岡） 636	⑱東京学館浦安（千葉） 637	⑲愛知（愛知） 641	⑳滝川二（兵庫） 653	㉑埼玉玉（埼玉） 659
㉒東北（宮城） 666	㉓明大中野（東京） 667	㉔千葉日大一（千葉） 672	㉕恵庭南（北海道） 678	㉖興国（大阪） 678
㉗土浦日大（茨城） 681	㉘桐陽（静岡） 685	㉙堀越（東京） 686	㉚愛知工大名電（愛知） 691	㉛聖学院（東京） 694
㉜日大（神奈川） 696	㉝作新学院（栃木） 699	㉞藤嶺藤沢（神奈川） 710	㉟東海大四（北海道） 720	㊱一瀬戸内（広島） 失格

◇女子成績

①大体大浪商（大阪） 441 (220、221)	石川 沙織② 145 (70、75)	東妻 茜② 145 (76、69)	田中 瑞代③ 151 (74、77)
②冲学園（福岡） 460 (231、229)	斎藤 美香③ 153 (74、79)	米村 洋子② 153 (80、73)	北田 瑠衣① 154 (77、77)
③堀越（東京） 466 (234、232)	小林 英恵③ 149 (75、74)	塩田亜飛美③ 156 (79、77)	土肥 友子② — (80、—)
井上 景湖② — (—、81)	④香川西（香川） 473	⑤津島女子（愛知） 473	⑥武蔵野（東京） 479
⑦仙台育英（宮城） 484	⑧埼玉栄（埼玉） 484	⑨東京学館浦安（千葉） 513	⑩佐野日大（栃木） 517
⑪中京商（岐阜） 530			